

いわき市永崎地先におけるウニの密度調査

福島県水産試験場 栽培漁業部

1 部門名

水産業－栽培漁業－採貝藻、その他の魚種(海)

2 担当者

平川直人・佐久間徹・松本育夫

3 要旨

東日本大震災により、いわき市沿岸部は大きな被害を受け、津波による磯根資源の死亡や移出が懸念された。本研究は、震災以前より詳細なウニ密度データの得られているいわき市永崎地先において、震災前後のウニ個体数密度調査結果をもとに東日本大震災がウニ資源に与えた影響を評価することを目的とした。

(1)潜水調査は永崎地先のテンガシマ(通称)とネコイソ(同)の2調査点で行った。

(2)震災後の2011年6月に行った水中カメラによる調査ではウニはほとんど確認されなかった。しかし、2011年12月の潜水調査では多数のウニが確認され、2012年10月も2011年12月と同様、多数のウニが確認された。

(3)2012年10月のウニ個体数密度はテンガシマ、ネコイソそれぞれ7.03個/m²、6.80個/m²であり、2011年のウニ個体数密度より増加し、調査を開始した2009年以降最大となった(図1)。

(4)永崎におけるウニは東日本大震災直後、津波により漁場外に移送され個体数が著しく減少したが、その後徐々に漁場に戻り、個体数密度が増加したものと推察された。

(5)これまで磯焼けを防止し藻場を回復させるため、ウニの除去が実施されてきたところ、2011年は中止に至ったが、2012年12月には漁業者による除去作業が行われた。

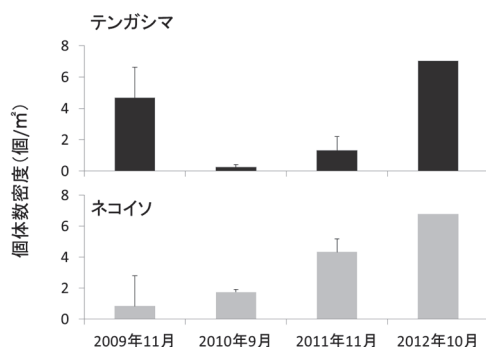


図1 2009～2012年における福島県いわき市永崎地先
(テンガシマ・ネコイソ)のウニ個体数密度

4 成果を得た課題名

(1) 研究期間 平成24年度

(2) 研究課題名 漁場環境保全技術に関する研究(津波被害に対応した藻場・干潟調査)

(3) 参考となる成果の区分 (発展見込)

5 主な参考文献・資料

(1) 平成23年度福島県水産試験場事業概要報告書